

For the international researchers on campus ~

外国人研究者のためにURAができること

桑田 治・斎藤知里・佐々木結・吉岡佐知子 / 京都大学 学術研究支援室 (KURA)

目的 Our final destination is...

外国人研究者*を含む学内すべての研究者の研究力を最大化し 大学の研究力を強化する
外国人研究者の訪日促進と定着を促し 大学の真の国際化に貢献する

*「外国人研究者」の定義

海外出身や外国籍など英語ベースで研究を行なう研究者。外国人が中心だが、海外での研究歴が長い日本国籍研究者も対象とする。

URAによる外国人研究者への研究支援

■ 新任者訪問の実施 (NEW)

➢ 新任の外国人研究者と個別面談し支援内容を紹介。学内教職員とも連携。

コツ: 該当部局担当のURAが専門分野の近いURAとタッグを組んで支援を提供。

■ 科研費に関する各種の英語支援

3-4月 研スタ申請支援 9-11月 申請書レビュー
7月 申請準備の説明会 翌4月 交付申請手続支援
9月 申請説明会

コツ: JSPS主任研究員、審査員経験者、外国人採択者の生の声を聞く。

■ メーリングリストの活用 – 外部資金情報の英文メール配信

➢ 日本語通知メールに遅れないよう英語でも研究助成の公募や説明会開催等の情報を配信 (登録数 約160件)

コツ: 分かりやすさと速報性を重視。学内外ファンドの情報を一括整理し展開 (JST、JICA、学内助成、海外ファンド等)。新規公募は予告段階からいち早く情報提供 (JSPS国際共同研究強化BやJST戦略事業など)。学内ファンド公募要領の英語版を作成。

■ 英語ウェブポータル拡充

➢ 科研費獲得支援、JST-CREST/さきがけ獲得支援のためのポータルを開設。
➢ 英語だけで申請できる民間財団助成事業リストなどを掲載。

コツ: 日本での経験が長い外国人研究者にも役立つ情報を増やして幅広い層へ。

■ 外国人研究者やURA等のネットワーキング

➢ 日常の微細な問題の即時解決を目指し、外国人研究者同士の繋がりと互助を促進する交流イベントを桂キャンパスで開催。

■ 外国人への研究支援者の情報交換ワークショップを開催 (NEW)

➢ 国内各大学のURA・事務職員と配分機関の関係者に参加いただき、取り組み事例や外国人研究者からの体験談を伺い、今後の課題を共有。

★現場の外国人研究者の声を省庁や配分機関に届け、よりよい制度設計へと繋げたい★

学内の外国人研究者の声

• 「新しい環境に慣れるため奮闘中。学内分野横断事業や企業とのマッチングに関心がある」 **ベルギー出身・講師**

• 「日本で研究活動するからには科研費に採択されたい」、「学生の旅費や研究室の維持のため継続的に科研費をとりたい」 **コロンビア出身・教授**



• 「事務からの助成公募に関するメールは日本語なので自分に関係する公募か判断できない」 **エジプト出身・准教授**

• 「配分機関等の公式HPで英語による公募情報が探しにくい、公表が遅い、または存在しない」 **イギリス出身・准教授**

• 「英語で申請できる助成公募をタイムリーに提供してほしい。英語書類がない場合は最小限の情報だけでも英訳してほしい」 **複数の外国人教員**

• 「各助成事業の特徴や申請書のどの欄に何を書くべきかは日本人の解説なしには理解できない」 **フランス出身・准教授**

• 「民間財団の助成事業は英語での申請を受け付けられない場合もあると聞いて失望した」 **メキシコ出身・講師**



• 「日本のラボやコミュニケーションの慣習を知っておくべき」 **アメリカ出身・ポスドク**、「学内他部局や日本の学会中心の学術コミュニティに参画する重要性を感じる」 **韓国出身・助教**

• ワークショップ参加者コメント「配分機関に関する発表が有益だった。他大学のURAも同様の課題に直面しているが、工夫して解決していることが分かった。」 **カナダ出身・准教授**

効果

- ✓ 外国人研究者にとっての言語面での不便さや疎外感を軽減できた
- ✓ KURAの認知度が向上し 外国人研究者がいつでも相談に立ち寄れる場/組織になった
- ✓ 外国人研究者に対してニーズに合った多様な支援を提供できるようになった
- ✓ 外国人研究者同士や 外国人研究者と所属研究室の日本人研究者との間の繋がりができた

KURAによる支援の浸透	H30年度申請
外国人科研費申請者に対するKURAの支援カバー率[説明会か申請書レビューの利用者の割合]	52% (67/130)
うち申請書レビュー利用者の割合	27% (35/130)

日本の研究環境での困難を軽減し 外国人研究者が研究に取り組みやすい環境を構築